

税務署の方は言われました
もうすぐに式がはじまりますので
家で夜にでも書いて

届けて下さいと

五分間くらいですませる仕事なので

私はソロバンを借って

仕事をはじめたのです

税務署の方はまた言われました

もうすぐに式がはじまりますのでと

自民党は三〇〇議席を獲得して

暮の選挙で圧勝しました

安保自動延長はやすやすと目前です

自民党政府はアメリカのことを

気にしていらっしゃるにちがいありません

自民党政府は日本の人民のことを

うっかり忘れていらっしゃるにちがいありません

税務署の方は式のこと気がなっていて

私たちのことを忘れようと

していらっしゃるにちがいありません

個人詩集「安保無情」より

第九章

木偶と王様

このアンソロジーは全体として若いものを主にしたのだが、特にこの章では若さが浮き出ている。

ただし、ここに並んだ若さもまた、決して野放図に甘くはない。甘い、辛い、塩からい、酸っぱい、苦いという味の基本からいえば、苦酸っぱさのなかの一脈の甘さの程度だろうか。甘さが濃密になるか、辛さや塩からさまで加わってくるか。予測は控えておこう。

雲は噛みしだく

■たなか よしゆき

第四の報告

十二時

水道の蛇口をひねると

嵐のようだ！

赤色の粉石けんをつけて

ヤスリとヤスリのように

こすりあわせると

手のひらから

きこの雲が

ぶくぶくぶくぶく

きこの雲を水平線でおっぱらうと

インクや油の死人どもは

心中だ！

下水道は水葬場だ!!

手のひらの中で

水滴が

ころころころころ

遊えん地の

シーソーにのっている

それを タオルのジャングルで

つかまえた

ミンチカツ メシ大

それに 橋のない川第一巻

「お忘れなく!!」

ソースの太平洋に

ミンチカツの鯨が

潮を吹きあげて

航海している

たんあんこ二切れ キヤベツのきざみ

マカロニすこし

アアッ!!

割ばしにつつかれて マカロニが最初に見

たものは虫歯 水銀や鉛やカドミウムや農

薬や色素が「チクロー」が そこにひっか

かっている マカロニの手が そこで ひき

ちざられて そのほかの部分は無事通過!

のどちんこの下側を引力に従がって落下

「エントツそうじが必要だ!」胃袋の中で次

に面会したのはマヤコーフスキーの未消化

部分 マカロニとマヤコーフスキーはスク

ラムを組んで落下 マとカと口とニと マ

とヤとコとフトスとキは腸から血管へ お

どり出て 手帳のケイ線にとじこめられた

音引二本は肛門付近でうずうず うずうず

ぼくは大きいのをもよおして

水陸両用便所にかけこんだ

グルグル ぐるぐる

トイレットペーパーに

プロレタリアートの朝やけの旋律

(個人詩集より)

ハタチ

■林 洋子



テレビの歌謡ショーに飽いてしまった女
二十歳

北爆縮少は実現されず
ライフルマンを英雄視する
ニホンの週刊誌

二十歳
ハタチ
二十歳が叫ぶ

手取り一万五千元
一万五千元がオドル
オドル一万五千元

選挙権はまだない

ラテン音楽に夜を明かす
乳房は
無欲に抵抗するためのもの

アベノと森の宮を往来する

給料日は私に教えた
大阪の夜を

夕刻
路上をまう一片の紙きれに
二十歳のかなしみは満載

ワタシ
ハタチ

〔一九六八・五〕

街がしょんべんでぬれるわけ

■山 一兵

夏になると、おれたちの街は
しょんべんくさくなる。

おれたちは街中どこでもしょんべんたれる。
便所がないからというのは方便にすぎぬ。

だれに遠慮があるものか。おれたちの街だもの。
だが、これも方便だ。

本当はおれたちの街じゃない。

この街はおれたちの住んでいる街で、

おれたちに住める街じゃないことを知っている。

トヤ主は一畳のベッドに法外なトヤ銭とって
ふんぞり返っている。

こんな街におれたちは住めるか。

食堂のおやじはくさったためし食わしてえばっている。

こんな街におれたちは住めるか。

ポリ公はおれたちの顔みりや泥棒と思って

けつとばす。

こんな街におれたちは住めるか。

手配師のだんな方はおれたちの稼ぎをピンハネる。

こんな街におれたちは住めるか。

きみら、この街の者よ。

おれたちの回答を受け取れ。

おれたちはきみらの顔の上でしょんべんたれる。へトをはく。

おお、この快感よ。

だから、夏になると、

おれたちの街はしょんべんくさくなる。

消しゴム

■すずき やすまさ

書き間違えた字を消す

正しいと思つて書いた字

でなければ

ついうっかりと書いてしまった字

間違えるつもりなど勿論なかった

裏切者の科白もいつもこうだけれど

鉛筆の不注意をどうして消しゴムが責めよう

消すためにだけ生まれてきた命なのだ

こんなにも深い沈黙の中で

これはたとえようもなく諦めているのだ

かえって

消す字があるなんて幸せ さ

でも 何度こすってみても

どうしても消えない字がある？

そう 本当は

一度書かれてしまった字を消すことはできない

どんな消しゴムにだって

それを消すことなどできはしない

消しゴムには 只

消すという行為をあくまで誠実に装いながら

自らを少しずつ消し去っていくことができるだけなのだ

「岩礁」10号

天気のおあい

■中島 明子



月曜日に雨が降ったので
少年が死にました
十三才でした
長いまつげでした

水曜日にはすっかり晴れたので
娘が死にました
十八才でした
毒殺されたのでした

金曜日に雪が降って
心中がありました
誰も知らない
恋人たちでした

日曜日は

まだ来ません

十円銅貨

■角谷 龍一

お前 十円銅貨と呼ばれ
単なるエキストラの一人であるお前が
或る晴れた日
子供の手に強く握り締められ
駄菓子屋の小母さんの手迄 一直線に
駆けて行くことがある
子供達の世界ではお前も又主人公だ
だが 手から手へ太く書かれた一本の線の
その線上の見えない部分で
お前
泣いている子供が居ないだろうか
お前のその円の中で
母と子の掛引が今日もどこかで行なわれ

同じその円の中で閉鎖された炭鉱の
“からん”とした住宅地で子供達が遊んでいる
お前
その子供の顔を知っているか

空腹を満すには小さ過ぎるお前
飢を癒すには冷めた過ぎるお前
お前のその茶色い肌は
焼け落ちたビルの鉄骨の色で
破壊された街の風景の色だ
お前と引替に手渡された新聞から
泣いている子供の声が聞え
母を捜して歩き廻る
子供の小さな足音が聞える

「連日ハノイ爆撃」

お前知っているか

仲間の銅は値上りして

古銅業者までがニヤニヤ顔で「戦争は反対よ」と

お経の様に唱えている



ケッコン

ダンタン シケキニナレテ シマッタ シ。
ケッコン ショーヨ。

アツイ ミソシルヤ ヤキタテノ メザシオ マヱニ
サシムカイテ シヨクシオ シタイ
300エン モ 400エン モ ダシナガラ
マスサオ コラエテ ムリヤリ ノミコム ノワ
モータクサンダ。

ケッコン ショーヨ。
キミト ボクトノ アイノ タメ デワ ナク
セメテ シバラクノ アイタオ イキノビル タメニ。

(1972.9)

シヨ一ヨ

■小林 知巳

ケッコン ショーヨ。
ホドーオ アルイテ イテモ
クルマガ オソツテ クル シ。
クーキ サエ ノドニ ツカエテ
ムセテ バカリ イル シ。

ケッコン ショーヨ。
オナニ一モ ムセイモ
アマリニ ムナシーシ。
カイタンオ ノボル ミニスカートノ ナカワ
ミエソーテ ミエナイ シ。
ホルノ エーガワ
カンジンナ トコロオ ミセテ クレナイ シ。
エロチシスム フンカクワ

少年ノ海

■香川 善彦

海ネムイ ボクモネムイ

世界デ一番深イトコロ

タブン今日ハオソクナルダロウ

ボクノポケットニアルモノ ソレハ

昨日アキラメタ小サナカミキリムシ

漫画コップト怪獣絵本

傾キナガラ流レテ行ク着飾ッタ風景

ユラユラト続タト木偶ト王様ト

不信ニ満チタ海ノフクロウ

ソレトモ

海ニ棲ム女デモ ケモノデモナイソレ

炎ト海ト宙ニ浮キ素晴シイコト美シイコト

ソレデモヒトシキリ風ガ吹キ

ボクノ赤茶色ノ髪ノ毛飄々トナビキ

ドコトモナイ果シナイ空ノ影ヲ追イカケル

水浴ビノアトノ小鳥ノヨウニ

ヨルボクハ 悪イ夢見ヌヨウニ

胸ニ組ンダ両手ホドイテ眠ル

アノ海ノ向ウデ負傷シテ帰ッタ

爆撃機ノ翼ノヨウニ

オクレタ夜明ニ漂ウ匂イ ソレハ

一瞬タツンダ怖イ海神ノ風景

ボクハ一心ニ自分ノ貧シサヲ測ル

アレイライ ボクハイツモ独リ言イウ

色ツキノ夢ノツツキ

視エナイ海底ノ坂登ルヨウニ

破レタシャット泥靴ハイテ

ボクハ ボクノ重サヲ海ニユダネル

マルデ悲シミニ耐エカネタ半旗ノ身モダエ

心ノ飢エト耳鳴ノ持病
寒イ暗イ ナニモ見タクナイ
空仰ギ 溜息ツキ
目ニハ視エナイ裂ケメニ向ッテ
イッサンニ ボク走ル
ボク走ル海



第十章

ひきあわん・

ひきあわん